

GIGAスクール環境下における体育授業の充実 実践研究校 研究報告

水泳	山口県立西京高等学校（山口県） 電話番号 083-923-8508 メールアドレス a51180@pref.yamaguchi.lg.jp
----	---

●実践研究のねらい

- 水中動作を可視化し、知識や技能の習得を図る。
- 仲間との対話を通して、自己や仲間の課題を発見し、合理的な課題解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

●具体的な活用方法

- 《個別最適な学び》知識・技能の定着を助けるデジタルドリル
- 《協働的な学び》意見・回答の即時共有を通じた効果的なグループ学習

●指導の工夫

1 水中動画の可視化

タブレット端末及び水中での撮影が可能なカメラを活用し、プールサイド及び水中から撮影した動画によって、様々な角度から自己や仲間の動きを客観的に分析したり、上級者の動きと比較したりすることで、課題を明確にし、知識や技能の習得を図った。

2 個人の課題に応じて活動を選択できる場の設定の工夫

プールサイドから撮影するレーンと、水中動作が撮影できるレーンを分け、個人の課題に応じて、レーンを選択して練習に取り組めるようにした。また、必要に応じて上級者の動画をチェックして自分の動画と比較できるような場を設け、それぞれの課題に応じて自ら活動に取り組めるように工夫した。

●授業の様子



【上級者の動画との比較】

事前に撮影していた上級者（水泳部員）の動画を必要に応じて確認し、自分の動きと比較ができるように工夫した。



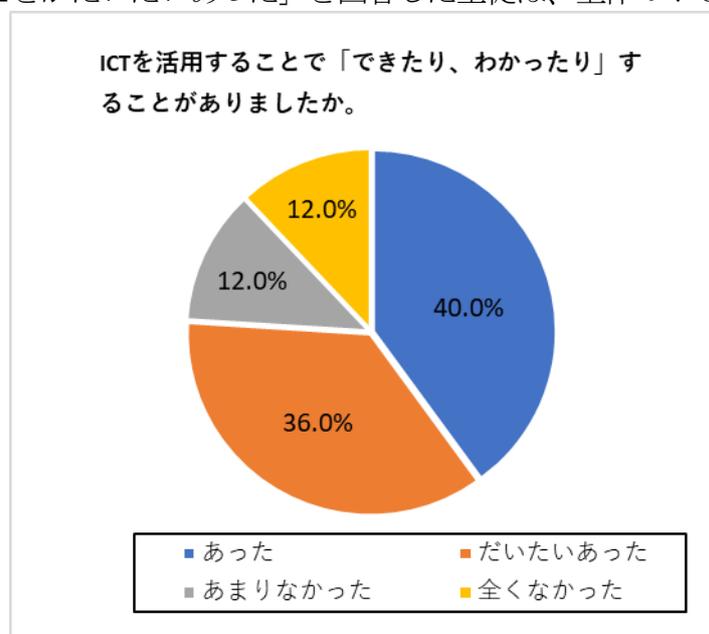
【水中動作の撮影】

水中動作の可視化によって、自己や仲間の動きを今まで以上に客観的に分析することができた。

●児童生徒の資質・能力の育成状況、取組み方や意識の変容など

【児童生徒の資質・能力の育成状況】

- 撮影した水中動作の確認は、普段確認しづらい自分の動作の確認や、細かな動作のイメージ作りに有効であり、課題を具体的に伝え合い、解決を図ることで、知識・技能の習得が図られた。
- ICT機器を活用することで、「できたりわかったりすることがあった」「できたりわかったりすることがだいたいあった」と回答した生徒は、全体の76%であった。



【取組み方や意識の変容】

- 自己や仲間の動きを動画で撮影し、課題を発見する活動は、他の領域でも行っていたので、水泳においても、上級者の動きとの比較から、課題を発見し、その解決のための手立てを積極的に提案や助言し合う姿が見られた。
- 動画を活用することで、グループ内での教え合いも活発に行われ、泳ぎが苦手な生徒も意欲的に活動に取り組む姿が見られた。
- 動画の撮影方法を課題に応じて選択できるように場の設定を行ったことで、個人の課題に応じた合理的な運動の取組み方を自ら考えて活動する生徒が増えた。

●成果

- 普段見ることのできない水中動作を客観的に確認することにより、効率的に知識や技能の習得が図れた。
- 動画の活用によってグループでの対話を深めることができた。
- 生徒自身がICT機器の活用を選択することで、個人の課題に対する合理的な解決方法を生徒自身が選択することができた。

●課題

- 使用機器の説明にも時間を要する中、運動量の確保とグループでの話し合い活動の充実をどのように両立させるかが課題。

